

姫路市立美術館40周年記念 講演会・シンポジウム

変化の時代の美術館～100年後も市民とともに

秋冷のみぎり、皆様方にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃より当館の運営にご協力いただき、ありがとうございます。

当館は、本年4月に開館40周年を迎えました。これを記念して国立新美術館長・逢坂恵理子氏による記念講演会に合わせ、逢坂氏とともに兵庫県立美術館長・林洋子氏、姫路市立美術館長・不動美里の3名でのシンポジウムを開催いたします。

概要

不安定で不確実、そして複雑で曖昧な時代＝VUCAの時代といわれる現在。実際に、コロナ禍を経て価値観の変化、急速なデジタル化、戦争・気候変動による私たちの生活への直接的な影響など、これまで「当たり前」と思っていた事柄がそうではなかったと知られることが、私たちの身近にも起こっていると実感します。ミュージアムも例外ではありません。昨年ICOM(国際博物館会議)で宣言された新しい博物館定義や、今年4月に施行された改正博物館法からは、ミュージアムの社会的機能自体が、ここ数年の間に大きく変化したことがうかがわれます。そのような中でミュージアムの一つである「美術館」、特に姫路市立美術館を含む公立美術館は、どのような方向に向かうべきでしょうか。

記念講演会では、講師に独立行政法人国立美術館理事長・国立新美術館長である逢坂恵理子氏をお招きし、美術館の歴史とレガシーを幅広い見地から振り返り、これからの美術館の在りようを展望します。シンポジウムでは、講演会に続いて逢坂氏、兵庫県下では当館以外で唯一の女性館長であられる兵庫県立美術館長の林洋子氏、そして当館長の不動美里が、美術館の未来を探ります。

日時 2023年11月18日[土] 13:00-15:30
会場 姫路市市民会館 3階第二会議室(中ホール)
(兵庫県姫路市総社本町112)
主催 姫路市立美術館
参加方法 当日受付 先着順 *定員:180名

当日のスケジュール

-13:00 市長あいさつ 清元秀泰 姫路市長
-13:10-13:50 記念講演会 講師:逢坂恵理子氏
-13:50-14:00 休憩
-14:00-15:30 記念シンポジウム
パネリスト: 逢坂恵理子氏
林洋子氏
不動美里
モデレーター: 鬼本佳代子(姫路市立美術館学芸課長)
-15:30 閉会

出演者プロフィール

逢坂 恵理子
おおさか えりこ
国立新美術館長



東京都生まれ。学習院大学文学部哲学科卒業。専攻芸術学。国際交流基金、ICA名古屋を経て、1994年より水戸芸術館現代美術センター主任学芸員、1997年より2006年まで同センター芸術監督。2007年より2009年1月まで森美術館 アーティストティック・ディレクター。2009年4月より2020年3月まで横浜美術館長。2019年10月より現職。2021年7月より独立行政法人国立美術館理事長を兼任。

林 洋子
はやし ようこ
兵庫県立美術館長



京都府生まれ。東京大学文学部卒、同大学院修士課程修了。パリ第一大学にて博士号取得。東京都現代美術館学芸員、京都造形芸術大学教員、文化庁芸術文化調査官を経て、2023年4月より現職。これまで手がけたおもな展覧会に、「没後50年 藤田嗣治展」(2018-2019、東京都美術館、パリ日本文化会館ほか)、「DOMANI・明日展」(2015-2023、国立新美術館ほか)、おもな著作に『藤田嗣治 作品をひらく』(2008、サントリー学芸賞ほか受賞)などがある。

不動 美里
ふどう みさと
姫路市立美術館長



京都府生まれ。大阪大学文学部美術学科卒業(美術史専攻)。1985年度スペイン政府給費生(UCM美術学部)。岐阜県現代陶芸美術館学芸員、金沢21世紀美術館学芸課長を経て、2013年5月より姫路市立美術館副館長、2022年4月より現職。おもな企画展に「ロシア・アヴァンギャルドの陶芸」(2003、グッドデザイン審査委員長特別賞)、「愛についての100の物語」(2013、日本展示学会作品賞)等多数。東京国立近代美術館評議員、国立国際美術館評議員ほか、国公立美術館委員受嘱多数。